

水害・土砂災害から身を守るために、気象情報や洪水情報を入手しましょう。市ではこれらの情報や雨の降り方などから総合的に判断し、避難に関する情報を発表します。自らの命は自ら守る意識をもって、適切な避難行動をとってください。

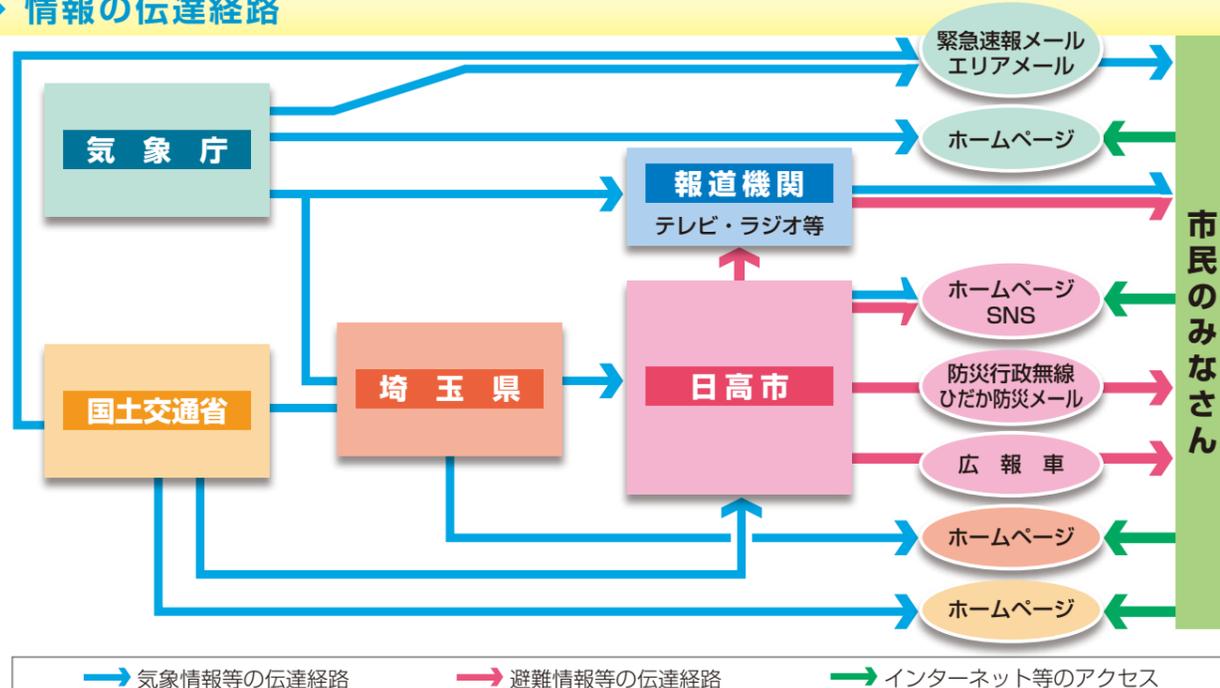
「避難」とは「難」を「避」けることです。市が開設する避難所に行くことだけが「避難」ではありません。下記のフローチャートとハザードマップで自宅周辺等の災害リスクを把握し、万一の際の避難行動を確認しておきましょう。

水害・土砂災害時に入手する情報

避難情報等 (警戒レベル)			河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
			浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保	5相当 氾濫発生情報 大雨特別警報 (土砂災害)
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~~				
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4相当 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	3相当 氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報	2相当 氾濫注意情報
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1相当

※避難に関する情報は、必ずしも上記の順番で発令されるとは限りません。

## 情報の伝達経路



## 避難行動を確認しましょう ※該当する項目にチェック を入れてください。

「水害・土砂災害ハザードマップ(P6～P21)」で自宅の位置を確認して印をつける。

**水害**  浸水深の色がついている。  
 家屋倒壊等氾濫想定区域内にある。

**土砂災害**  土砂災害(特別)警戒区域内にある。

にチェックが1つでも入る ↓  にチェックが1つもない ↓

家屋倒壊等氾濫想定区域と土砂災害(特別)警戒区域の区域外にある。  
 自宅の居住可能な部屋が、浸水深の色よりも高い位置にある。  
 居住可能な部屋より下が浸水しても、水が引くまで耐えられる。  
 水が引くまでの飲料水や食料などの備蓄が十分ある。

にチェックが入らない項目がある ↓  にすべてチェックが入る ↓

自分や一緒に避難する人の中に、避難に時間を要する人がいる。

にチェックが入る ↓  にチェックが入らない ↓

安全な場所にある親戚・知人宅などに避難できる。  
 安全な場所で車中泊ができる。

にチェックが1つでも入る ↓  にチェックが入らない ↓

安全な場所にある親戚・知人宅などに避難できる。  
 安全な場所で車中泊ができる。

にチェックが1つでも入る ↓  にチェックが入らない ↓

**警戒レベル3「高齢者等避難」**で親戚・知人宅、車中泊などへの立退き避難を始めましょう。

**警戒レベル3「高齢者等避難」**で避難場所への立退き避難を始めましょう。

**警戒レベル4「避難指示」**で親戚・知人宅、車中泊などへの立退き避難を始め、避難を完了しましょう。

**警戒レベル4「避難指示」**で避難場所への立退き避難を始め、避難を完了しましょう。

災害の危険がなくなるまで自宅で待機する「**屋内安全確保**」をお願いします。ただし、過去に浸水や土砂災害の被害があった場合などは、必要に応じて立退き避難を行いましょう。

**立退き避難(分散避難)**

- 自宅が氾濫や土砂崩れなどに巻き込まれる可能性が高い場所にある場合は、他の場所へ移動して避難しましょう(立退き避難)。
- 立退き避難先は、指定避難所に限りません。親戚・知人宅、車中泊なども立退き避難先に該当します(分散避難)。
- 逃げ遅れた場合は、近隣のより安全な場所(堅牢で3階以上の建物の上階など)に避難しましょう(緊急安全確保)。

**屋内安全確保**

- 避難行動のひとつです。災害の危険がなくなるまで自宅で待機します。不要不急の外出はしないようにしましょう。
- 建物内において、より安全な部屋(河川やがけの反対側にある上階)などに移動します(緊急安全確保)。

## 避難時の心得

**避難時の行動**

- 単独での行動は避け、ご近所(特に高齢者や子どもなどの要配慮者)に声をかけながら一緒に避難しましょう。
- 動きやすい服装、運動靴を履いて避難しましょう。
- 過去の浸水・冠水、土砂災害の被害箇所や窪地、アンダーパスなどは通りません。やむを得ず浸水箇所を通る場合は、長い棒を杖代わりにして足元を確認しましょう。

**避難先・避難所での生活**

- 避難する前に、知人や親戚などに避難する旨を連絡しましょう。
- 非常用持出品、感染症対策用品などを持参しましょう。
- 避難所では大勢の人と共同で生活するため、互いにルールを守り、助け合うように心がけましょう。
- 避難する際はペットの同行が可能ですが、ペットの飼育は屋外で行い、飼い主が面倒を見ましょう。